

亀甲城(蝮尻城) (南九州市知覧町郡城山) (知覧亀甲城公園)

亀甲城は知覧城の支城として築かれた城です。登城路がらせん状になっており、巻貝の蝮(にな)に似ているため、蝮尻城とも呼ばれました。現在城址は「知覧亀甲城公園」として整備されており、堀切、土塁などが確認できるほか、本丸跡に南北朝の忠臣、知覧又四郎忠世の石碑が建てられています。また城下には知覧武家屋敷群があり、1852年(嘉永5年)頃に架けられたとされる矢櫃橋(二重眼鏡橋)も観光名所となっています。

「攻城団」による

